

ヤン・リーピン

# 孔雀

THE PEACOCK



アジアの舞姫、  
新作とともに3年ぶりに来日！  
原点にして代表作「孔雀の舞」の決定版！

【芸術総監督・構成・主演】 ヤン・リーピン

東京公演 5月23日(金)～6月1日(日)全10回 Bunkamura オーチャードホール

【主催】 TBS / Bunkamura / Albax... 【後援】 中国大使館、BS-TBS

# ”踊る精霊”ヤン・リーピン

## 相関図



人気上昇中の“回転少女”

## ツァイー・チー

“時間”役として、上演中2時間、1つ所ずっと回り続けるという、驚異的な身体能力を持つ少女は、今年15歳になったばかり。ヤン・リーピンの実の姪。人形かと思まごうほどよどみなく回り続け、神秘的な雰囲気を出す。カーテンコールに出ると、中国公演では、ヤン・リーピン以上の喝采を受けることも。



## 物語



豊かな森に命が満ちる春、美しいメス孔雀・サドゥが生まれる。

## 春

森の命が一層輝きを増す夏、サドゥは美しいオス孔雀・ガヤと出会い、恋に落ち、愛を深めていく。

## 夏

そんな2羽の姿に惹かれながら嫉妬する鴉のルーバン。ルーバンはサドゥを力づくで鳥かごに閉じ込めてしまう・・・



# のすべてがここにある!

ヤン・リーピンの踊りの完璧なまでの美しさには驚かされた!それは誰にも真似できない唯一無二のものだ。  
大地の中で生まれた厳しさと大らかさがあり、見る者を包み込む。オーチャードホールに鳴り響く拍手の音が今から待ち遠しい!

**熊川哲也** (Bunkamuraオーチャードホール芸術監督)

ヤン・リーピンといえば「孔雀の舞」。  
彼女は「中国の至宝」「奇跡の舞」とも言われるが、それが決して誇張でないことは、彼女の舞を一度でも生で観ればわかるはずだ。  
腕から指先までを細かく震わせる彼女を観ているうちに、孔雀の長い首に見えてくる。なんとも靈感にみちた舞だ。彼女の指先は宇宙と繋がっている。  
ヤン・リーピンは雲南省の白族出身で、雲南省に数多く残る、しかし今や消えつつある伝統舞踊を収集して歩き、若者たちを集めてダンサーとして育成し、大規模な公演活動を始めた。  
日本で上演された『シャングリラ』と『クラナゾ』はいずれも、伝統舞踊を現代風にアレンジしたもので、大勢の若いダンサーが舞台を埋め尽くす、ダイナミックな作品だった。  
今回日本にもってくる『孔雀』は、彼女の創作である。  
ヤン・リーピンは「自然との共棲」を強調するが、『孔雀』も春夏秋冬の四部構成で、季節の移ろいとともに物語が進行する。四季は孔雀の、そして私たち人間の一生と重なっている。その四季の移ろいを、舞台美術が実によく表現している。  
美術と衣装は、映画『グリーン・デスティニー』でアカデミー賞最優秀美術デザイン賞を受賞したティム・イップだ。  
そして最大の見所は、これまでは孔雀の舞など一部でしか観られなかったリーピンの踊りが全編にわたって観られることだ。彼女はもう50代のはずだが、その体力と美しさには圧倒される。

舞踊評論家 鈴木晶

アカデミー賞受賞の世界的デザイナー

## ティム・イップ

映画『グリーン・デスティニー』で2001年アカデミー賞最優秀美術デザイン賞と最優秀衣装デザイン賞をダブル受賞。新しい東方主義的美学を全世界に紹介した。以前からヤン・リーピンに注目していたというティム・イップ。ヤン・リーピン独自の世界観、美的世界を見事に体現した。美しい孔雀の衣装は必見。



## 秋

木々が葉を散らす秋、囚われたサドゥを助けようとするガヤに、ルーバンは、ガヤの美しい羽根と交換ならサドゥを解放してやると迫る。ガヤは迷った末、自分を犠牲にしてサドゥを救うことにする。



森に静寂が広がる冬、ガヤを失い悲しみにくれるサドゥ。そこに現れるのは、すべてを見ていた“神”だった。サドゥにもたらされる救いとは……

## 冬



アジアで創造者であろうとすると、ヨーロッパと自国の文化について深く考えざるをえない。  
 ヤン・リーピンは、素晴らしい才能と想像力で、それを統一した。  
 そして、それを支えるのは圧倒的なダンスそして民族舞踊のテクニックだ。  
 もちろん彼女の美しさも。ぼくは、その場に立ち会えることを思うと、身震いするほどうれしい。

—— 蜷川幸雄 (演出家)

過去、私は、ヤン・リーピンの作品を2度、観ている。  
 一つは「シャングリラ」、そして「クラナゾ」。新しいアーティストの作品を見て、  
 その世界に強烈な引力で引き寄せられることは滅多にないが、  
 その世界に強烈な引力で引き寄せられることは滅多にないが、  
 彼女の世界は別格であった。彼女の緻密で圧倒的な美しさは、他では見かけない。  
 私は、何よりもファンとして、彼女の新作「孔雀」を心待ちにしている。

—— 山本寛斎 (デザイナー/プロデューサー)



東京公演 2014年5月23日(金)～6月1日(日) 全10回

5	23	24	25	26	27	28	29	30	31	6
金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
13:00	●			休演日						
14:00										
18:00										
19:00	●									

【料金(税込)】S席 12,000円 A席 8,500円 B席 5,500円

Bunkamura オーチャードホール

- ◆ Bunkamura チケットセンター  
03-3477-9999 (10:00～17:30)
  - ◆ オンラインチケット My Bunkamura  
<http://www.bunkamura.co.jp/mybunkamura/> (要事前登録)
  - ◆ Bunkamura チケットカウンター (10:00～19:00)
  - ◆ TBS オンラインチケット **TBSくじや** 検索
  - ◆ ローソンチケット  
0570-084-003 (18:00以降/Lコード:32123)  
0570-000-407 (18:00以降/オペレーター対応)  
【インターネット予約】<http://l-tike.com/y12014/> (PC・携帯)  
【店頭販売】ローソン・ミニストップ店内Loppiで直接購入可能。
  - ◆ チケットぴあ <http://pia.jp/> (Pコード:433-656)  
セブンイレブン、サークルK・サンクス、チケットぴあ店舗
  - ◆ イープラス <http://eplus.jp/y-liping/> (PC・携帯)
- 【お問合せ】 Bunkamura 03-3477-3244 (10:00～19:00) <http://www.bunkamura.co.jp/>

大阪公演 6月7日(土)・8日(日) 全3回 梅田芸術劇場 メインホール

【公演スケジュール】 6/7(土) 13:00開演 / 18:00開演 6/8(日) 13:00開演 【お問合せ】 キョードーインフォメーション 06-7732-8888 (10:00～19:00)